N°190 BASTOS, 22 de NOVEMBRO de 1953 ○ PROGRESSISTA REG 4.576 2.695

バストス週報

第百九十号
昭和廿八年
十一月廿二日
発行

登録名義人
KOITI MORI
発行所
RUA PRES VARGAS 188
BASTOS

REDATOR
SION ODA
C.P 112

A/P
記事
一部
外部 70部

サンパウロ四百年祭に関し日本に於ける工作報告、の2

協力會長山本喜誉司氏の報告要旨から……

前承

毎日新聞、朝日新聞、読賣新聞も事ある毎に能く記事を書いてくれました。東京放送局も三度、ラジオ東京も二回も放送をさせてくれました。

サンパウロ四百年祭典に際しサンパウロでは一体何が行はれようとしているか、為々在留邦人としては何をしようとしているか。又列國はどんな協賛態度をとっているか、といふような事を私の口から又新聞ラヂオを通じて一般に広く知って貰ふように努力致しました。

政府筋との交渉は全部外務省を通じて致す事にしました。これは工作に統一を計る為めでありました。外務省には欧米局第二課といふ所がありまして、これが中南米関係の仕事を取扱ってある所であります。欧米局長は先頃当地にも来られた土屋準氏、第二課長は佐藤日史氏、課長代理で森居敏三氏その他課員に岩瀬事務官、先頃迄当地におられた和田事務官等、これらの方々は実によく援助して下さいました。博覧會見本市の事ともなれば欧米局第二課を通じて經済局第三課に話しに行きます。課長は福井政男氏、課員には目下リオに来ておられる藤本事務官等がをられます。この第三課を通じて通産省へ話しに行き又ヴェトロへ話しに行きます。

又ビエナール展とか日本建築並に日本庭園の事ともなれば外務省の情報文化局第三課に行きます。課長は戸田盛國氏課員には野村事務官などが担当者となられます。これらの方々もよく面倒を見て呉れました。

二月中旬迄與村事務次官以下上記の外務省各関係官、通産省、ヴェトロ方面の関係官吏を一応一巡訪問説得し、又一方では自由党総務林譲治代議士、本田毎日新聞社長以下幹部に接衝して一般形勢を調査の結果私の工作と二つの方面に分けてやる事に致しました。

即ち一方では四百年祭に日本政府協賛の実を挙げるため出来るだけ予算要求額を増大して貰ふ運動と、一方では民間にも協賛の態勢を整えて貰ふための日伯中央協会を推進機関として募金並に参加企劃をやって貰ふ組織を作ることでありました。

この二つの仕事の外に私には吾々在留民が企劃している日本家屋並に庭園築造計劃を具体的に進めること、ビエナール展参加を推進すること、四百年祭典に参加希望の学者、文化人、運動競技界の人々に接して説明や意見の交換をする仕事もありました。

こうして前にも申しましたように人に會ったり、講演で喋ったり、新聞で書いたりラヂオで喋ったりして段々工作を進めてきましたがそれについて漸く一般が四百年祭の意義を理解してくれ協賛熱が段々高まってくる事が感ぜられました。又大急ぎで「サンパウロ四百年祭典の意義」なるパンフレットを印刷して二千部を配布致しました。之は後に改訂増刷致しまして更に二千部を頒布しました。

又國会議員間に超党派的に組織されている海外移住促進議員連盟の会議に出席して皆さんおなじみの大橋忠一氏、今村忠助氏、田染香織氏其他にもお話致しました。又朝日新聞社へ参っては三木皆さん、中村ましたの荒垣秀雄氏、茂木政氏等にもお話致しました。又ラヂオ東京の足立正氏や常務の義倉吉次氏に協力を求めたり、三月の中旬には岡崎外務大臣、益谷自由党総務、緒方官房長官、大野幸議員議長、村田有藏日伯中央会顧問など各方面を駆け廻って働く民間協賛組織の結成を目指しておりました。

突然三月十四日に議会の解散となりました際、もう此工作はその目標を失って仕舞ってひどく狼狽致す事となりました。

この時には民間協力会結成の構想は出来ていたのですが三月廿九日には特に日伯中央協会では、田中耕太郎、関桂三、村田有藏の三顧問の外、会長以下集って頂いて善後策を御相談申したのですが誰の意見も総選挙后迄形勢観望の外無いと言う事に

Alfaiataria MARUYAMA

あなたの洋服は……
丸山洋服店で
卒業服・パシア服・結婚服・
ジンジック・テイネイ・必ずお氣に召す
どうぞすぐ御でかけ下さい
美しい明年のホリニアでなたにも差上げます

一致したものですから、その方面の工作は一時中止して只管地下工作に没頭することにしました。

三月廿日には矢工ロに河野達一郎事務局長以下所員十数名に事情説明して協力を願ふやら新聞に記事を載せるやら講演をやるやらラヂオで喋るやら、重ねて沢田会長と外務次官を訪問するやら、丁度相談役の高岡さんが来られて御協力下さったのもその頃でした。

又サンパウロ協力会から依頼越のパチソの作成、ポスターの印刷や四百年祭用レコードの作成など交渉中であったのもその頃の事でした。又此の間を利用して大蔵省方面に予算獲得上の運動もやりました。

又此の間を利用して四月十二日には関西へ参り日伯協会の幹旋で多数の聴衆を集めて四百年祭典の説明を行い協力を求めました。

又桑原忠夫氏、祝山桃水等の後援を得てサンパウロ四百年祭典参加企劃書なるパンフレットを作成、印刷に附して祭典の意義、ブラジル側の企劃、在伯邦人の企劃、日本側協賛会の結成構想並にその企劃等を詳細説明しました。これも二千部印刷しました。

かくて四月十九日に総選挙が行はれ、廿二日に結果の大勢が判明しました。

また内閣決定には間もありますので、その間に講演をやったり、新聞に書いたり、ブラジル大使を訪問して近況を報告したり歌舞伎の渡伯希望について久保田万太郎氏其の他と会見したり、NHKの古垣会長に依頼したり、通産省の国際協力課長石丸志氏に説明したり、重ねて土屋欧米局長伝藤外二課長を招待懇談したり、ダトロ関係を招待懇談したり、大蔵省の河野主計局長、正宗次長石原次長を招待懇談したり、渡伯希望の藤原義江、石井みどり其他等々に面会したりしている一方漸く政界大勢の定まる頃迄となりましたので数回に亘って日伯中央協会の役員会を催しまして政界安定後の工作構想を練り準備万端を整える事に費しました。

五月下旬になりまして二つの大きな出来事がありました。

その第一はその当時迫サンパウロ現地の協力会の企劃に稍々動揺がありましたが幸にもそれが確定を見まして日本庭園に囲まれた日本建築による展示場を作成する計劃が本決定を見るに到った事、一方日本では新内閣も成立致しましたのでサンパウロ四百年祭典協賛に関係ある関係各省連絡会議が結成されまして五月廿六日に第一回会議が開かれ予算要求討議が開始されました。之で私も軌道に乗って工作がお出来るようになって ホッと致した次第であります。

又此の頃から日本側協賛会結成の具体的工作に移る必要上募金の対照となる実業界方面人士の訪問説得を開始致しました。

愈々五月三十日の土曜日に沢田会長にお伴をして岡崎外相をその官邸に訪問して協賛会結成を政府の名に於て懇願して頂く為めに財界始め各界の有力者多数を茶会に招待して頂く件をお願ひ致しました。

席には土屋欧米局長も参加してくれました。そしてサンパウロ四百年祭典に参加する事は政府も既にブラジルに申入れてある事であるし、その参加の必要性は何等疑義の無い事であるから喜んでやりましようと云ふ返答を得ました。

六月四日には招待される可き側の第一人者である一方田日銀総裁を日本銀行に訪ねて大いに喜びました。

そして募金の目標額が六千万円であると聞いて恐る〳〵申入れたる所「なに、やろうと思ひます」とのロマンチックな御宣託に小躍りしました。

とこで外務省の欧米局第二課を応援して茶会開催の諸準備に早速取り掛りました。これが又仲々複雑且つテリケートなのでありましてその難点は招待人名簿の作成でした。

日本の名士と募金を対照として八十名内外を選出すると言う事は誠に六ヶ敷しい仕事でありました。

二菱銀行頭取千金良宗三郎氏や日本鋼管の林会長や参議院議員で外務政務次官の小滝彬氏や同じく参議院議員の岸良一氏東阪神急の小林一三氏や其他を訪問してその頃のもこの頃でありました。

経済界多数を持っていない事として騒動に騒動を重ねている時であり外相は極めて多忙で容易に面顕の茶会が実現する様子も見えません。

招待名簿も中々出来上りません。そこでその間を利用してサンパウロ現地側の企劃確定に伴って四百年祭典参加計劃書の書替を行い又予算額も訂正したりして茶会の際にそれを提出する準備を行いました。又情文局第三課から國際文化振興會の関部長景会長、井上康二

土地買ひ度し

一、市街地より十キロ米内外の処
二、面積十アル乃至十五アルケール
三、牧場向きの地形であること

右御心当りの方は左記へ御報らせ下さい。

委細御面談のこと。

バストス市、アデマルデバロス街角

セラリスタ 佐藤商會

郎常任理事等に通じて予ねて依頼してあつた堀口捨己博士に日本建築並に日本庭園の設計に着手方をお願ひしたり、ビエナール展に出品すべき作品選品の相談会に数回出席したり、相当忙しく駆け廻りました。又衆議院第二会館で開かれた海外移住促進議員連盟の総会に出席した席上サンパウロ四百年祭共協力の緊急動議が可決され、お礼の挨拶を述べたのも、その頃の事でした。又この時こそと思つて盛人に新聞に書いて貰い又ラヂオで喋りました。（以下次号）

バクチ　バストス

アントニオ生

バクチはやりの　カヤロウなど
ストスよいとこ　一度はおいで
かね廻り　居やしない
バクチ　ストスよいとこ　一度はおいで
き腹かかえて　張っては見たが
ストスい取られては　筍　の
トリップとは　なさけない
きどさ打ってた　うちだけは
トンと二三度　あたったが
うの昔の　まるはだか
きなあの娘と　手をとって
ストスいもないも　山分けで
えはあっさり　さようなら

戦災孤児の為めに
渡伯の途を拓き度い

神戸双葉学園主　十七日　末植！

去る十一月十七日、ブラ拓拓田氏の案内で、神戸双葉学園主大倉睦二氏が来植された。同学園は主として戦災孤児を収容して居るが、収容児が十八歳になると社會へ巣立をするので彼らの為めに新天地たるブラジルの沃野を一巡しておこうといふのが渡伯の第一目的。もう一つは戦前氏が神戸で経営していた海外渡航助成會の理事時代、眼疾の為め渡伯出来なかつた人々の為め救ひの手をさしのべ眼疾を治癒せしめて渡伯させた家族（延人員一万人以上とのこと）の安否を訪ふのが第二目的。氏は本年六十七歳の高齢に至るも寸暇を惜まず社会事業の一端に全我を投じている崇高な人格者である。政治家、役人、貿易家、芸能人、学者、ヒューマニストと称ずる人は千差萬別であるが、氏の如く慎しまやかに、かくれたる社会事業家として、孤児達の為めに道を拓いてやろうとする人も、あるのを見て襟を正さずには居られない。

バストス移住地開設
當時の思出を語る
19.　畑中仙次郎

初期の病院

何れの集団生活にしても、植民地開設に当つても医療施設の伴わない時は大きな支障を来たし痛ましき犠牲を餘儀なくされるであろう。大きな夢を抱いて渡来した新移民が配耕された先で医者の連絡を欠いた為めに容易に良くなる病気でも遂には、不帰の客となつて哀れな最期を遂げた実例は枚挙に遑がない。極端な一例ではあるが一九一六年平野植民地創設当初の悲劇の如きは、初年に於て人口の約二割を失ひ、一家全滅の悲運に会ひあたら渡伯の目的も達成せずして他界した気の毒な人も多かった。

ノロエステでもソロカバナ奥地の開發に際しても大なり小なり苦き経験を嘗めて来ている。今後時に開發される人とするマットグロッソ州、其他に於ても、其の点に留意せば、尊き人命を、あたら投捨て、生産も思うように参らぬといふような不幸を招来するであろう。

バストス開發に際しては、保健衛生医療設備に関しては、専門的立場から、何に彼と副策せられ、萬遺漏なきを期した事は誠にありがたい事であったと申さざるを得ない。当初植民者の山林伐採にしても千古の處女林を各戸点々と小面積の伐採を避けて毎年各入植者の所要面積を可成大きく集めて同時に伐採焼却して次々に村を開いて行ったが八百アルケール以上伐採した年もあった。測量師が大いに頭を捻った事は勿論であるが、斯くする事により道路の開鑿や農業経営上に便するのみならず、住宅地を保健衛生の見地から理想的の場所に撰び新開地に付きものであるフェリーメ、ブラボやマラリヤ其他の風土病の難から逃がれるようにしたのである。当時同仁会の高岡さん等専門的立場からも指導を受けた事もあった。

昭和四年一月に従事員一同が中央予定地に移り住んで諸般の準備に取り掛り六月初めに第一回の植民者を迎へたのであるが其の時には既に假医局も落成して薬剤師相沢光三郎氏（高岡医博のクニヤード）が未任一応の薬品や医療機具を備えて忙しく働いて居った。

當時は日系医師が三、四人位で資格のある医師を招聘することは難事であったのである。

同氏は薬剤治療の經驗もあり、ソルテーロで誠に氣輕な人で高端よく世話をして呉れたので皆の者からも比ばれた。同年七月才二回植民者入植と同時に内田利藤次医師が来任せられ本格的に医療が始まった。同氏は岡山医專出身で外科專門であったが内科にても婦人科にても既に日本に於て豊富な經驗を積んで居られた人であり、看護婦として入植者の一人、末廣さんの娘のよし子さん（サントスの船中、既に内田さんの下で看護婦として手傳って来られた方）を早速雇ひ入れたので至極殺風景な假医局は俄かにパッと花が咲いたように華やかになった。從って治療も行き渡り当時奥地農村としては他に比類なく奥ソロからも時々患者が来てその恩恵に浴したものであった。

免角渡伯初期には風土に慣れぬ為め一寸した事で病氣に罹り易いのであるが手近かにブラジル語の心配もなく、医療が行き届くので日本の農村以上に恵まれ奥地開發にも拘らず何等の不安もなかった。

然し如何に名医でも外國人は当國で開業はできないので、当時ランシャリアに於て唯一人のマルチン医師（今も健在であるがランシャリア發展の為めプレフェートとして多年盡粹して来られた）の責任の下に医療が行はれたので月に幾回かバストスに来られた。此の状態はドトールイリネウがサンパウロから赴任せられる迄続いた。斯様な次第であったので、内田先生も一日も早く正規の資格を得る必要があり、翌昭和五年四月、豪に惜しまれながら、又移住地としても大いに事欠く次第であったが止むなく、受驗の為めにリオへ赴かれたので其の後任として、同年八月細江先生が見える迄相沢薬剤師に代理を勤めて貰ふ事になったのである。

ここで一寸余談になるが同氏の結婚には、当移住地最初のものであり私としても生れて初めて仲人を相勤めた思出深いものであるから次に畧記しておく

（此の稿つゞく）

来る十一月廿九日午後二時

故上田平吉氏一周忌法要

場所　石橋長吉氏宅

發起人　一同

ニュース・ヴァリュー

のなくなった話

その一

つくだ　ちがいの巻

此の話は十月廿日頃のパウズタ、南米時事等にのっていたアサイの運転手殺し事件であるが、今頃それを真録するのもカビモノだが、ロハ一つバストスへの氣もちを、いら〳〵させた事だけは確かだった。

アサイの運転手佃正といふ人が十月二十日頃外人男女客を乘せ十多カタリーナ州へ行くといって出たきり消息を断った。ところが廿二日頃空車と、帽子とカルタが發見された。手帳にはツクダと書いてあるこゝゝ此の話を、何人かがバストスへ傳へた。バストスの佃さんへ正式に傳へたのではない。廿四日宮崎寓奥館の本庫に夜伽に集った人達は、よい話のタネとして枝がのび花が咲いた。バストスの佃さんの長男は正義さんといって、アサイに住み力ミニオンの運転をやっていた。ところが妙なもので、その力ミニオンは、いつの間にかトモーベに代ってしまい、殺されたのはバストスの佃正義さんに違いないことになってしまった。しかるに当の佃さんの家では、正義は眼が悪くてカンピーナスへ療生に行くといふ手紙が来ているから、人ちがひでしようといふ話である。そんなら、ショフェーロの帽子とカルタを外人にでも渡して代理稼業をさせたのだ、殺されたのは、その外人だろう、こういふ風に、ツクダといふ姓がざらにないところから何でも話をそっちへもってゆこうとする。

あまり噂が烈しいものだから佃さんの親戚早川靴店主永栄氏は、とにかくアサイへのりこんで現の本人を見てくる如かずと十一月二日頃特別仕立のトモーベをとばして行ったら、やぱり人ちがいだった相だ、それにしても佃正、佃正義、似て居るようだね、事は殺されかはトモーベ人ちがいの方は力ミニオンっしかし偶然にカルタの番号が同じだったいふ。佃ちがいでよかったと知人たちはわがことのように胸をなでおろした。

一家に必ず一袋　内用意

廣賀堂の

家庭薬

医者やは射のまねあわぬとき　大変役に立つ

ファルマシア

サ、キ

座談會 6

バストスを再檢討する

△○原移民を衝いてはいけない

桑原氏語るいで……「果の方からも移民の心構について注意してくれと云はれ、知事からも頼まれたので和哥山第一、第二、第三と送り出しがつづき、ことに第三回は和哥山県が主体となる程多いので、私もお世話をした関係上現地迄送って参ったようなわけです、移民たちは充分覚悟されて居りますが、現地の受入体勢は、よくありません、蔭口をきくわけではないが今のようですと将来は心配です。」

時川「僕はギフンに燃えるから言ふんですが、昔ブラ柘植でバストスに入植した吾々はブラ柘の苦べにも係らず随分苦情を言ひましたが、ドラードスでは文句がいへないのです、時代がちがふのでしょうが吾々はブラジル行の選手気取り、英雄きどりでした。ところが今のドラードス移民は新鮮な気持ちを求めて渡伯して来たのですから、文句は決して云ってません、しかし扱ひは実に気の毒です。僕が先日視察した時の状態ですとバニアはない、ブジョンはないバカリヤオもなかった営養失調を来たしますよ今に、どんなものを食べているか、米とみそしる、メボシぎりです大根を漬けたり大根葉をミソ汁に入れる程度です、荷物は露天積みのまゝ、部屋は床にジカにコルションを敷き歩くところもない位、食事を作るにも皆外でやってゐました、今に病人になったら病気で流行したりとをっとしましたよ。移民事業を△○原氏そのものが思ひちがいしてゐるとしか思はれません、戦後の日本移民を入植せしめた事は△○原さんの大成功ですが取扱ひまで皆負はないでも××柘のような経験のある方面に委されればよい、××柘でもやり度かったのでしょうが大将同志の勢力争ひから××柘は手を引いてしまった、そして△○原さんが受入迄引受けた、××柘にやってもらへば、商賣人だし、なれたもんだ、△○原さんは所詮農業者としての○○しかない真の点たしかに狭量ですね、一番上の大事な事さへして居りゃまちがいなかったのでせうに」

水馬「本田さん、今日はバストスの事を語る会でしょう、あまり他の問題に触れん方がよろしい」

本田司會「養蚕移民について谷口さん一つ、受入体勢などについて」

○養蚕移民と養鶏移民

故上田平吉翁一周忌

来る十一月廿九日法要執行
場所は　石橋長兄氏方廣間

時下炎暑の砌り各位益々御清適慶賀奉ります却説、バストス蚕糸業界の大先輩且つ功労者たる故上田平吉翁がインダイアツーバ市に客死されてより早や一年は経過し十一月二十日はその一周忌に当ります、就ては下名等相談の結果来る十一月廿九日午后二時より石橋方広間に於て故上田平翁の法要を営み故人の冥福を祈ると共に、その生前を偲ぶことゝなりました、何卒故上田氏と懇意にされました方々は御繰合せ御参り下さる様御案内申上ます

追而諸經は午后二時からですが、佛壇は早くより備えあります故適時御出で下さって結構であります

一九五三年十一月二十日
故上田平吉氏追悼會發起人

石橋長兄　池戸信次郎
畑中仙次郎　橋本光義
生長の家代表　西辯一
細江菊　織田守男
落合亀作市　大野英雄
梶田伊勢松　吉浦秀次郎
谷口章　山中三治
榎常孝　佐藤福太郎
霜出静二

各位

José Ignacio Pinto
Fabrica de jacá
Rua Campos Salles 118 Bastos (Em baixo de Cadeia
最も信頼の出来る苗木
Café カフェー苗　Eucalipto ユーカリプト苗
Laranja ラランジャ苗　Limão リモン苗
いろいろ種類を取揃えて居ります。ジャカ入り ジャカ無し
多少にかかわらず御註文下さい
ジョゼイグナオピント

谷口「養蚕移民を是非入伯せねばならんと蚕糸協会ピーボ氏から蚕糸局長にもちかけて奔走してもらった、大体伯國の生糸消費量に対し聖市の生糸がいつも不足を来たして居るので業者は輸入を希望しているが、輸入許可をすれば、せっかくブラジル産業としての養蚕の芽をつぶす事だから、技術移民を入れて蚕糸業の振興を計ることになったので需用供給の円滑を計るのが主眼です。移民局でも賛否拮半で四対四、遂に移民局長の理解ある一票で許可に決したといふ位デリケートな問題であった相です。ブラジル側としては、この様にしてまとまったが、日本の方は、どういふ方法をとるかと領事館大使館を通じて母國へ交渉することになってゐるが大体契約移民として取扱はれると思ひます、業としては向ふ四年に二百家族入伯させようといふのですが、バストス側では対策として代議員會で話をしたんですが各戸一家族を引受けることにしてはどうかと。そういふことが実現しますと、とにかく新しい氣風が注入されて移住地としても清新な感じを受けると思ひます。

交入れる側では具体的に云へば何分かの資金を必要とします、一戸招の方でも五人家族はお世話したいと思ひますが、どういふ風になるものか、時未だれ程になるものか未知数です」

桑原「渡航費は外務省で貸すことになって居ります、一人前十一万二千円位入りますが十三万円位迄貸してくれる。五ヶ年は利子丈払って据置き年賦十年賦で返すことになって居ますが、まア貸し下されで、くれるもんぞと思ふてます。

谷口「さてあたり住宅と蚕室があればよいのでうち招では四家族は世話出来ましょう、養蚕は回数が早いから、その点丈でも世話出来ます」

司會「水島さん、養鶏家の立場からは、どんなものですか、日本のブラン機など取り入れるといふ話もききましたが」

水島「私の組合では技術者を呼び度いと思ってます。種鶏を改良しようと思へば、それに必要な家族を入れなければならんのですが在伯者では望はない、種鶏改良の目的の為めに、そういふ技術者を必要としていることを桑原さんにもお話したのです。大体トリ一千羽(種鶏)を飼ってもらい珈琲を五千本トラッテーもらふ一家族に五アルケールの土地を与へるのですが、資本を毎年支拂ったのちは半分にするか、本人の所有にしてしまふか未決定です。日本から来るものとすれば一家族に百五十コントかゝる計算で一年に四家族は引受けられる、五年間に二十家族を入れたならば バランサがとれるかと思ひます、さき程の谷口さんの御意見とよくあひますが、養鶏の屠殺場の株でも、よその外人の会社のものなら一株も持つことはいらんと私は言ってる人です吾々の組合の第三期計畫に之があるんです、材料を提供する丈で株をもつ必要はないと云っているんです、昨年末株を募集に来た会社は資本金五千コントスといふ話で、しきりに私の所へも来たが一株も持ちませんでした。

先程のバストス一元化の問題でも話は簡単です、一万コントス現金があれば明日からでも出来る筈、全部施設買入りましょうといふならばすぐにも出来る話です。」

田中「それは株式会社なら知らず、組合ではない。買ひましようといふことはない」

水島「それでは誰が引受けることになるのですか」

田中「それは、各コペラードの心構へによります、組合の財産即ち組合員の財産です、誰のものでも無い、だから組合の一元化とは組合員の一元化です、各所属の組合員に自覚さへあれば絶対不可能といふ筋合ではないと思ふ、組合当事者よりも第一に組合員各自の自覚といふ点が実の処一番大切な問題なんです誰か大きな資本を持ってくるなら組合の一元化は明日からでも出来るといはれても、組合人としては資本と人を両立する建前から一方的には言ひ切れません」

(以下次号)

ジプロマード
卒業の
プレゼントに
腕時計……
懐中時計……
いろ〳〵取揃えて居ります
どうぞ御来店下さい
眼鏡・指輪・貴金属
オニブス停留所前
高田時計店
プレゼンテ バルガス街